

どう
ぼう
しん
ぶん
同朋新聞
1

Vol. 818

January
2026

Dōbō Shimbun

今月の写真

『同朋新聞』リニューアル

『同朋新聞』は、創刊から63年の歴史を有し、現在、毎月約75万部を発行しています。本紙の配布・配信を通じて、読者の皆さまの暮らしに確かな拠り所をお届けします。お寺の同朋の会やご家庭でご活用いただき、1人でも多くの方にお勧めください。

(大谷暢裕門首:右 木越涉宗務総長:左 和敬堂屋上にて)

Contents

- 2・3面 ● 新春対談 大谷暢裕門首×木越涉宗務総長
8面 ● 特集 帰敬式の願いをたずねて
10面 ● 新連載 他力の庭—東本願寺の庭師コラム—

全ての人に届けたい



新連載

英語で味わう
正信偈の世界マイケル・コンウェイ
(大谷大学 文学部真宗学科 准教授)しょうしんねんぶつげ
正信偈

英訳 「Verses on True Acceptance through Recalling the Buddha」

和訳 「仏陀を思い出すことをとおして、今、私が生きているこの世界を
あるがままに受け入れることに関する詩文」

第一回

宗祖親鸞聖人が、真宗の教の要を七字一句の偈文に綴った「正信偈」。その味わいについて、新しく連載を担当させていただくことになりました。今月は、自己紹介に加えて、簡単に連載の趣旨と予定についてお話しします。

私は、アメリカ・シカゴの郊外で、大家族の末っ子として生まれ、賑やかな子ども時代を送りましたが、10代に入ってから、種々に悩み始め、20歳になった頃に人生に大いに躊躇しました。その苦しい中、真宗大谷派と縁の深いシカゴ仏教会を訪れ、念佛の教えを聞くことによって新しい世界の見方を教わり、新しい方向に歩み出すことができました。

その後、宗派の関係学校である大谷大学大

学院の修士課程(真宗学専攻)に入学し、真宗大谷派の教師資格を取得するとともに、真宗学の研究を進め、博士課程を終えました。

現在は、大谷大学の真宗学科の准教授として、学生とともに親鸞の思想について学び続けています。国際コースのゼミでは、学生と、「正信偈」の本文と英訳を並べて考察することによって、親鸞の思想の真髓に迫ろうとしています。

英訳をとおして、親鸞が伝えようとしていたことの輪郭がクリアし、より鮮やかに見えてくることが多いと感じています。また内容の濃い仏教用語が連続して述べられる漢文の文章を英語に直すことは、難解な言葉の意味を吟味し、明瞭に表現する

重要な機会になります。

そこで今回の連載では、私が親鸞の思想を受けとめて作成した英訳を読者の皆さんにご覧いただきながら、その英訳の実践をとおして得た気づきと、感じた課題についてお話ししたいと思っています。親鸞聖人が「正信偈」において示された言葉が、現代の私たちにどのようなメッセージを持っているかということを一緒に確認していきたいのです。

「正信偈」には合計百二十句があります。これから毎月英訳を掲載し、原文の意味と英訳の語句について解説していきます。

親鸞聖人が「正信偈」において示した真実の世界を、ともに味わっていきましょう。





だけ聞かせてもらっています。今朝のお話は、浄土真宗の信心はどういうことか、といった話でしたね。どれも本当にありがとうございましたお話を。

——毎朝、晨朝に参拝されている方と「正信偈」を一緒に唱和されていますね。

門首 それが晨朝の楽しみでもあります。毎日参拝されている方もおられますから、私も少しきりどご崇敬の役目を勤めなければと考えます。また、私の妻であるサチカの母もブラジル別院の「おあさじばあちゃん」と呼ばれるほど、毎朝お参りされていました。晨朝参拝が身に付くと、朝起きたらお参りをしてこないと気が済まないと思うそうです。

それで、日本に来てからサチカも毎朝晨朝に出て、たくさんお友達ができます。その中のお友達の一人が、90代のおばあちゃんで、毎朝お参りに来ておられます。その方は、「私は行くところ(本山)一番私の幸せなことや」と言つておられたそつで、サチカは本当に身に染みたと言つていました。

——毎朝、晨朝に参拝されている方と一緒に唱和されていますね。

木越 当時はどういったご門徒の方が多かったです。

門首 アサイは街でしたので、近所に住んでおられる方たちは商売をされている方が多かったです。しかし、ご門徒の方の95%ぐらいは農家でした。その方たちは、アサイの街からちょうど離れていて、10キロから20キロぐらいの範囲に住んでおられる方々でした。

——今年の8月には、ブラジルで世界同朋大会が開催されますね。各地の同朋の方々が集われますし、門首も楽しみ

海外の真宗門徒との交わり

——門首は、ブラジルでご門徒にお育ていただいたことを、非常に大事にされていると伺いました。

門首 私は両親とともに1歳の時にブラジルに渡りました。そこで、初めてに住んだ場所はアサイ(旭)と呼ばれていた。日系人によってできた街です。そこに建てられた前はアサヒ(旭)と呼ばれていた。日系人後ろ姿は、今でも忘れません。

特に、父がつくった声明会のメンバーは

忘れられません。毎日、晨朝のお勤めを手

伝うために、4、5人ぐらいの方がお寺に

来られていきました。私が4、5歳ぐらいの

時でしたが今でも、その方が一生懸

命お勤めされていた声が耳に残っています。

一番私の声です。「なまんだぶなまんだ

ぶ」と口癖のように称えておられる

自然と耳に入つきました。そういうこ

とが小さい時からの思い出です。

木越 当時はどういったご門徒の方が

多かったです。

門首 アサイは街でしたので、近所に住

んでおられる方たちは商売をされている

方が多かったです。しかし、ご門徒方の

95%ぐらいは農家でした。その方たちは、

アサイの街からちょうど離れていて、10キ

ロから20キロぐらいの範囲に住んでおら

れる方々でした。

——今年の8月には、ブラジルで世界同朋大会が開催されますね。各地の同朋の方々が集われますし、門首も楽しみ

世界に開かれている真宗の教え

——門首は、門首就任時からかねがね、真宗は世界に開かれた教えであるとおっしゃっておられますね。世界中に南無阿弥陀仏を伝える、良い機会になりますようね。

門首 ニュースでは、子どもたちが食べる

ものがなくて困っています。あいつのを見

ると、本当に心が痛みますし、どうして人間はこういうことしかできないのか。話

し合いというものがなぜできないのかと

考えています。このような時であれ

ばこそ、分かち合う心、お念仏の心を広めたいですね。

世界にお念仏が広がることは素晴らしいなと思つています。みんなで「正信偈」のお勤めをすることが楽しみですね。

それと同時に、日本のご門徒方にぜひブラジルを見ていただきたいです。今回

は会場がイグアスですから、立派な滝で

有名な場所です。ブラジルとパラグアイとアルゼンチンの3カ国が隣接している

場所なので、一つ橋を渡ると国が変わる

といふとても珍しい場所なんですよ。大会後にはマチピュチヨやリオデジャネイロを巡るツアーもあるようですね。

木越 どちらも楽しそうな場所ですね。

私はリオに行つてみたいと思っています。

門首 リオもとてもいいところですよ。ブラジルは、魚がおいしいんですよ。他に

も、鍋料理もとてもおいしいと 思います。いえ、もう一つ、カーニバルが有名です。

カーニバルは2月ですが、サンバはいたる

ところへやつて、お祭りで、ご覽いただけます。

木越 そうなると、やはり真宗の教えを

ポルトガル語など多言語化すること、そ

して発信するツールを持つことが大事で

すね。宗門では『同朋新聞』が一番大きい情報発信の媒体です。真宗を知らない方

たちの手にどうやつたら『同朋新聞』を渡していくか。翻訳し、多言語で発信していくことも重要な課題です。

木越 親鸞という方を海外の方たちは

誰か知らないんですね。翻訳して伝えないと、どんなに素晴らしい言葉でも相手に響かないのではないかと思つ

ます。そのため、私たち真宗大谷派がやらなければいけないことは何か。まずは足りません。

元から、一人でも多くの方にお念仏の心を知つてもらひ、その喜びを感じてもらひ

うになるのか。なんとかお念仏を届けた

りと、いつも心の心を保つてもらひよ

うよ。

そのため、私たち真宗大谷派がやらなければいけないことは何か。まずは足りません。

元から、一人でも多くの方にお念仏の心を知つてもらひ、その喜びを感じてもらひ

うになるのか。なんとかお念仏を届けた

りと、いつも心の心を保つてもらひよ

うよ。

そのため、私たち真宗大谷派がやら

なければいけないことは何か。まずは足

りません。

そのため、私たち真宗大谷派がやら

ひかりを
ひえたひと

一七高僧と聖徳太子

源信僧都

四

第25回



親鸞聖人がお念佛の教えを自分のところまで届けてくださった師として、生涯大切に仰がれた方々がいます。「七高僧」と呼ばれるインドの

龍樹・天親、中国の曇鸞・道綽・善導、日本の源信・源空(法然)。そして「和國の教主」と仰がれた聖徳太子です。親鸞聖人は彼らからどんな「ひかり」を受け取られたのでしょうか。本号では「正信偈」をとおして、

源信の教えを振り返ります。

〔「正信偈」『真宗大谷派勸行集(赤本)』
二八一(九頁)〕

源信広開一代教
偏帰安養勸一切
専雜執心判淺深
報化ニ土正弁立
極重惡人唯稱仏
我亦在彼攝取中
煩惱障眼雖不見
大悲無倦常照我

源信僧都の時代、日本にはさまざまな仏教が伝わっていました。日常生活の具体的な心構えを説いたものから、容易にはその意図が理解できないものまで、いずれも釈尊の一代に説かれた教えとされていました。これらの中から、源信僧都が注目したのは、専ら称名念佛することによる阿弥陀仏の淨土(安養)への往生でした。

ところが、多くの人には、易しい行よりもより難しい行による方が大きな功德があるのではないかと考えられていました。念佛するにも、専ら称える「専修」と、さまざまな行を併せて行う「雜修」とがあります。さらには、信心を持つ力(執心)にも違いがあるともされました。世間的には、専修よりも、雜修の方が功德が大きいように思えます。「南無阿弥陀仏」と称えるだけよりも、さまざまな善行を行う雜修の方が達成感も得られるからです。

仏道が世間の日常感覚の延長であるならば、このように考えるのが自然です。多くの仏教者たちも、そのように考えていました。しかし、仏道は、世間を自力で上手に渡っていく方法ではなく、世間以外に出世間という世界があることを教えます。「出世間」とは、世間のありさまを問い合わせる世界です。源信僧都も、母親からの手紙でそのことに気づかされたのでした。

源信僧都は、『往生要集』などの著作の中

源信僧都が示したこと

源信僧都の時代、日本にはさまざまな仏教が伝わっていました。日常生活の具体的な心構えを説いたものから、容易にはその意図が理解できないものまで、いずれも釈尊の一代に説かれた教えとされていました。これらの中から、源信僧都が注目したのは、専ら称名念佛することによる阿弥陀仏の淨土(安養)への往生でした。

ところが、多くの人には、易しい行よりもより難しい行による方が大きな功德があるのではないかと考えられていました。念佛するにも、専ら称える「専修」と、さまざまな行を併せて行う「雜修」とがあります。さらには、信心を持つ力(執心)にも違いがあるともされました。世間的には、専修よりも、雜修の方が功德が大きいように思えます。「南無阿弥陀仏」と称えるだけよりも、さまざまな善行を行う雜修の方が達成感も得られるからです。

仏道が世間の日常感覚の延長であるならば、このように考えるのが自然です。多くの仏教者たちも、そのように考えていました。しかし、仏道は、世間を自力で上手に渡っていく方法ではなく、世間以外に出世間という世界があることを教えます。「出世間」とは、世間のありさまを問い合わせる世界です。源信僧都も、母親からの手紙でそのことに気づかされたのでした。

源信僧都は、『往生要集』などの著作の中

で、世間の延長で仏教を捉えるべきではなく、仏がこの世界に出現したのは一切衆生を成仏へと向かわせるためだつたと示しました。あらゆる衆生を平等に救おうとする仏教が、どのような修行を積めたかで違いを設けるでしょうか。そこから考えた結果、源信僧都は、雜修よりも、念佛だけを信じる専修の信心の方が深いことを明らかにしたのです。そのことは、専修によって往生する淨土は眞実報土で、雜修による淨土は方便化土であると示したことにも表れています。「方便化土」は、淨土の辺地とも称されます。ここを出て淨土の中心地である眞実報土に行くことは難しいといいます。



わけみ あきら
采翠 晃
大谷大学文学部
仏教学科教授
京都教区近江第25西組
長光寺住職

次回からは、
源空(法然)上人について
たずねていきます。



現在を生きる



「今できる、ことを
何でもやろう」



「駅カフェみい」にてお客様の話に耳を傾ける橋爪さん

かつて茅葺き家屋が建ち並び、「日本の原風景」が残る地域として知られた石川県輪島市三井町。その中心部にある「駅カフェみい」をきりもりされる橋爪美土里さん(75歳)を訪ねた。

輪島市によって整備された「のと鉄道」の元駅舎を活用して、2013年に開業された「駅カフェみい」。以来、地域のお年寄りが集う交流の場となり、橋爪さんは大正琴の教室やフリーマーケットを開催してきた。また、グラウンドゴルフ場でコンサートを企画するなど、地域おこしに努めてきたという。

しかし、2024年1月に能登半島地震が起き、一時、店舗を閉める。三井町でも多くの家が全壊の被害に遭った。橋爪さんは自宅を修繕しながら住むことができたが、長らく

能登教区第7組
佛照寺門徒
橋爪美土里さん(75歳)

さんを訪ねた。輪島市によつて整備された駅カフェみいは、地域のお年寄りが集う交流の場となり、橋爪さんは大正琴の教室やフリーマーケットを開催してきた。また、グラウンドゴルフ場でコンサートを企画するなど、地域おこしに努めてきたという。

耳の底に残つてゐるといふ。穴水町で生まれ育つた橋爪さんは、結婚後、輪島市内の保育所に定年まで勤務した。義母が元気な間は、お寺の仕事をほとんど頼つてゐたが、退職した頃から自分がお寺に参るようになつたそうだ。熱心な聞法者ではないけれど、お寺へ行くと穏やかな心持ちになる、と橋爪さんは言う。

念仏が体にしみ込んでいるかのように、橋爪さんの言葉の端々から「ナムアミダブツ」が聞こえてくる。柳谷住職によると、橋爪さんは書道を続けてきた。時代から書道を続けるという行程で掲示され

ました」と感謝する。そんな橋爪さんに「真宗との出会い」を尋ねると、即座に生家の両親の話になつた。「父と母は朝夕、必ずお内仏に手を合わせていました」。報恩講などお寺へもよく連れられて行き、その時聞いた節談説教の語りは衝撃的で、今も耳の底に残つてゐるといふ。

穴水町で生まれ育つた橋爪さんは、結婚後、輪島市内の保育所に定年まで勤務した。義母が元気な間は、お寺の仕事をほとんど頼つてゐたが、退職した頃から自分がお寺に参るようになつたそうだ。熱心な聞法者ではないけれど、お寺へ行くと穏やかな心持ちになれる、と橋爪さんは言う。

敬正寺がお寺の掲示板を始めたのは30年程前のこと。きっかけは、能代大火による

寺地移転だったといふ。ご門徒が多く住む住宅街から離れたことによりつながりが薄くなつてしまつた。そこで、道行く人たちに掲示板を通じて仏教を伝えることを始めたが、今では熱心に見る人が増え、毎月メモ

る。どの言葉を選ぶか住職と坊守で見解が分かれることが多い。あるそうだが、坊守の意見を参考にすることが多い。そう。工夫している点を伺うと、長くて難しい文章や、断定的な言葉を避け、多くの人が親しみやすい言葉を選ぶように心がけているといふ。

近年は敬正寺の周りでも掲示伝道を行う寺院が増え、さまざまな言葉に出あうことができる熱心な地域となつてゐる。教化の一環として掲示伝道が広がつてゐることを、柳谷住職が実にうれしそうに話していたのが印象的であつた。

能登教区通信員
経塚幸夫

坊守の美喜子さんが書き上げるという行程で掲示され

東北教区通信員
光井広顕

お寺の掲示板

第28回

お寺の掲示板に込められたさまざまな願いを、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。



きょうしょうじ
敬正寺(東北教区秋田県北組)
秋田県能代市萩の台5番12号
住職 柳谷 悅麿

佛教の視点から「私たちのいま」に向き合う月刊誌

特別企画 南無阿弥陀仏

なむあみだぶつ。今回、この六文字にさまざまな角度から光をあて、南無阿弥陀仏が発する、ゆたかな輝きに出会いなおしていきます。

新連載もスタート!

●土井善晴のお斎の風味をたずねて

●釈迦発達の八正道



- 地獄・極楽を読み解く
—新解『往生要集』
- 後生の一大事を心にかけて
—ニューヨークから開教便り
- 仏事作法のひとこま ほか

月刊『同朋』1月号

A4判・オールカラー 60頁

定価:440円(税込・送料別) / 年間購読:4,400円(税込・送料込)



同朋会でも! 紙でも電子でも!

ついに、月刊『同朋』が電子書籍になります!

今月号から、電子書籍でも購読いただくことができるようになりました。Kindle(Amazon)や楽天koboなどで購入いただけますので、「紙」でも、「電子」でも、『同朋』をお楽しみください!

詳しくは

東本願寺出版

検索



浄土とは何なのか? 私がそこへ往き、生まるとは一体どういうことなのか?

浄土真宗の根幹たる教えに問い合わせ続けてきた著者があらためて尋ねる一冊。

伝道ブックス94

私はどこへ往き

生まるのか—往生浄土の仏道—

龜谷亨著 / 新書判 80頁 / 定価:330円(税込)

ご注文・お問い合わせは

東本願寺出版

075-371-9189

075-371-9211

詳しい書籍情報は

東本願寺出版

検索



東本願寺出版公式LINEお友だち募集中 公式アカウントID⇒@469jqkzt

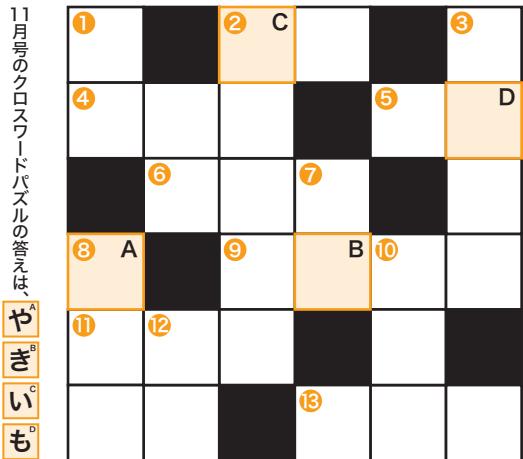
今月号の『同朋新聞』を読んで、

クロスワードパズル

を完成させよう!



「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、
クロスワードパズルを完成させましょう!
1月号の『同朋新聞』を読むと、答えがわかります!!



や
き
い
も

タテのカギ

- 本紙の配布・配信を通じて、読者の皆さまの暮らしに確かに○○どころをお届けします。(1面)
- 「ひかりを伝えたひと」今月は○○○○僧都についての第4回目です。(4面)
- 「現在を生きる」橋爪美土里さんは、「駄カフェ○○」をきりもりされています。(9面)
- 「縁—お寺の掲示板—」今月の法語は「独りで行くほうがよい 孤独で歩め 悪いことを○○○求めるところは少なくあれ」です。(9面)
- 「読者のお便り」今月のタイトルは「初めて読ん○『○○朋新聞』」です。(11面)
- あなたのお悩みお聞きします。東本願寺い○○とこころの相談室 075-371-9280(11面枠下)

答え



※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

ヨコのカギ

- 「教えて住職!」今月の質問は「手を合わ○○合掌する意味ってなんですか?」です。(10面)
- 「特集」帰敬式とは、「仏」「法」「僧」の三宝に帰依し、お念仏の教えを拠○○○として生きる者となることを誓う大切な儀式です。(8面)
- 「てらこや大谷」今月の画伯は○○いんじこども園に通う柳田愛花さんです。(6面)
- 青少幼年と共に○○○、共に生きる(7面枠下)



●「1面」夏の甲子園に出た小松大谷高校が真宗大谷派の学校だと全然思わず紙面で初めて知りました。わかつていればもっと応援したと思いました。(島根県60代)

●「縁—お寺の掲示板—」俵万智さんの短歌はとても共感しました。ふと、遠く離れて住む子どもたちのことを思い出し、なんだか涙が出来ました。これからも見守っていきたいなと、あらためて思いました。(愛知県70代)

リニューアル記念

正解者の中から抽選で6名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1,000円分」、4名様に月刊『同朋』をプレゼントします!

郵便はがきにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」「住所」「氏名」「年齢」「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、下記までご応募ください。今月号の締め切りは2月10日(火)(当日消印有効)です。

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
東本願寺出版「クロスワードパズル係」まで

Googleフォームでも
応募できます!

※メールでの応募を終了し、今号からGoogleフォームでの受付に変更します。

応募は
コチラ



ご注意 ◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報はプレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」や「読者のこえ」に掲載する場合があります。◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

“お話を聞いて “お勤めをして “お掃除をして “語り合おう!” 真宗本廟奉仕に参加しよう!

真宗本廟境内には、全国から来られるご門徒と寝食を共にして真宗門徒の生活を習う「同朋会館」があります。お友達と一緒に、真宗本廟奉仕にぜひご参加ください。皆さまのお越しをお待ちしています。

参加者の声



真宗大谷派門徒の家に生まれましたが、初めて真宗本廟を訪れ、祖父母の信心の中心がここにあったのかと圧倒されました。地元に帰った後は、推進員として所属寺の活動を率先して実践いたします。(70代・男性)

上山された団体(2025年11月)

※組・寺院名のみ

北海道 第9組後期教習、第9組正樂寺・專厚寺、第9組淨光寺 東北 青森県第2組蓮心寺、秋田県南組真乘寺・照樂寺、仙台組東漸寺 東京 東京1組、東京8組、東京真宗同朋の会、真宗会館友の会 新潟 第17組護念寺、高田13組淨泉寺同朋の会
富山 第3組 大垣 第17組蓮休寺、推進員連絡協議会 岡崎 第7組淨專寺、第14組安寧寺 名古屋 第14組圓周寺、同朋会運動推進協議会「このるの会」 山陽四国 第6組正覺寺同朋会 九州 八女組八女第1ブロック門徒会、三井西組光桂寺、福岡組妙樂寺、久留米三井組、九州教区、九州大谷短期大学 開教区 ハワイ開教区 その他 全国教区門徒会正副会長協議会、泊まって学ぶ親鸞講座酉月会、こぶし会

お申し込み・お問い合わせ

1団体5名以上でお申し込みください。
個人でも参加できる奉仕団があります。
(春の法要奉仕団、おみがき奉仕団、報恩講奉仕団、お煤払い奉仕団)

申し込み
冥加金
希望日の40日前までに、電話もしくは同朋会館ホームページから予約のうえ、上山される1か月前までに申込書を提出ください。
(2泊3日) 18,000円、米2kg(1升4合)
または米代1,300円
(1泊2日) 13,000円、米1.2kg(8合)
または米代800円

同朋会館・研修部
TEL:075-371-9185
奉仕団の予約
はこちから
もできます



真宗本廟

開門・閉門時間
3月~10月
5時50分~17時30分
11月~2月
6時20分~16時30分

詳しくはこち



東本願寺 検索

しんらん交流館

開館時間/9時~17時
休館日/毎週火曜日
(1階)カフェ シュイロイースト
営業時間/9時~18時
定休日/毎週火曜日

詳しくはこち



浄土真宗ドットインフォ 検索

渉成園

開園・閉園時間
3月~10月:9時~17時
(受付16時30分まで)
11月~2月:9時~16時
(受付15時30分まで)

詳しくはこち



渉成園 検索

大谷祖廟

開門・閉門時間
5時~17時
納骨・読經受付時間
8時45分~11時30分
12時45分~15時30分

詳しくはこち



大谷祖廟 検索

読者のお便り

初めて読んだ『同朋新聞』



秋田県在住
藤田 まゆみ(75歳)

お寺に生まれて、毎月どさつと届いていた『同朋新聞』。読むことのないまま東京に嫁ぎ、秋田に帰ってきた時には、生家を出て50年が経っていました。お内仏に手を合わせる毎日の中で、あの新聞はなんだったん

だろうと考えていた頃、数年前に亡くなった友人のお墓を訪ねました。そこでご住職に『同朋新聞』を手渡されました。

初めて読んだ『同朋新聞』は懐かしいお寺での生活を思い出させてくれました。日々お寺に

来てくださる方々がいたこと、その方々からお米や野菜などさまざまなものをおすそわけいただいていたこと、本堂から聞こえてくる祖父の法話、そのどれもが特別なことだったと気がつきました。

祖父母や両親が守ってきたお寺、浄土真宗という宗教について興味が湧き、今では定期購読し、大切な心の拠り所となっています。これからも興味深く読ませていただきます。

お便り募集

『同朋新聞』の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。

宛先 EXメール: shuppan@higashihonganji.or.jp FAX: 075-371-9211

◆住所・氏名・年齢・電話番号を明記してお送りください。

◆紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただく場合があります。



新連載

地獄なアイツ

作:護法/絵:こ原

※いつも明るい気分でいたい人は読まないでください



『同朋新聞』の最新号を 無料
メルマガにて配信します!

しんらん交流館メールマガジンに登録いた
だくと、毎月1日に『同朋新聞』最新号の紙面
PDFとウェブページ版の記事を配信いたし
ます。このほか、本メルマガでは毎月第2・第4
土曜日の朝に文章による法話をお送りして
います。ぜひご登録ください。

家族や知人にも
オススメください!

メルマガの
登録は
こちら▶



真宗本廟(東本願寺)では、参拝される皆さまをお迎えするために、
毎日さまざまな匠たちがお仕事をされています。

日頃は表立ってなかなか見えない東本願寺の日常を支える匠たちを紹介します!

読者への一言
大切なことはありますか?

儀式は私一人では成り立たず、準備や清掃を含め、儀式に関わるさまざまな人、参拝者によって一つの法要をつくります。そういう視点でご参拝いただけたらと思います。



3:00 起床(宿直時)、お仏供作り、
清掃、荘厳確認
6:30 清掃、晨朝準備
7:00 晨朝(朝のおつとめ)
以降、真宗本廟收骨や
帰敬式の補佐(準備)、当番仕事
や自己研鑽を行っています。

朝の流れ

参衆はどんなお仕事をされていますか?



参衆
藤林
広正
さんじゅう
ふじばら
ひろまさ
さんじゅう
ふじばら
ひろまさ

新連載

写真は3升用の盛槽
(お仏供を作る際に
使用する円筒形の型)

お東さん OHIGASHI インフォメーション

結願日中の
坂東曲



月刊聞法誌『ともしび』リニューアル!

月刊聞法誌『ともしび』は、2026年1月号より判型・価格を変更し、より読みやすい誌面へとリニューアルいたします。

2026年1月号は池田勇諦氏による「真実証」の現実主義を収載。
1部 165円(税込・送料別)



年間購読の
お申し込みや
詳細はこちら

「子どもたちの真宗本廟奉仕!」のご案内

お寺や地域、家族単位などによる、子どもたちを中心とした真宗本廟奉仕。季節を問わずいつでもお申し込みいただけます。

東本願寺
で
遊ぼう!



詳しくは
こちら

第63回大谷スカウト名誉奉仕訓練 開催案内

真宗大谷派の精神とスカウトの精神を深めることを目的に名誉奉仕訓練を開催いたします。当訓練は仏教章取得の対象となります。



大谷スカウトの
仏教章

開催日 2026年3月26日~29日



詳しくは
こちら

救援金を勧募しています

宗派では、「令和6年能登半島地震」に対する救援金を勧募しています。
皆さまからの温かいご支援をお願い申し上げます。

救援金口座 郵便振替口座番号 00920-3-203053

加入者名 真宗大谷派

※通信欄に「令和6年能登半島地震」と
ご記載ください。

救援金総額 248,636,328円 (2025年12月1日現在)

編集室
だより
より

◆今号より真宗の教えと宗派情報の発信をさらに充実すべく、情報性・社会性・対話性・尊厳性・超越性を軸として、紙面拡大のリニューアルを行い、より読みやすいレイアウトに変わりました。既存のコーナーを活かしつつ、新たに、1面「英語で味わう正信偈の世界」、5面「観無量寿經」序分に学ぶ」、6・7面「てらこや大谷」、10面「別院旅行」・「他力の庭」・「教えて住職!」、12面「東本願寺を支える匠」・「地獄なアイツ」の8つの連載を開始しました。

◆リニューアルと聞くと、私は最初“お店の味が変わってしまう”のではないかと思いました。代々継承されてきた秘伝のタレを変えるという、これまでそのお店に慣れ親しんだ者にとってはただ事ではありません。しかし、「同朋新聞」のリニューアルは、“お店の味を変える”ということではなく、真宗の、親鸞聖人の教えを“味わう感覚を変える”のだと思いました。お寺の同朋の会や家族、友人同士の会話のきっかけに『同朋新聞』を読んでいただけたと編集室もやりがいを感じます。ぜひ感想をお寄せください。(浅野)

真宗大谷派
東本願寺
shinshu Otani-ha
Higashihonganji

宗派公式ウェブサイト内
『同朋新聞』ウェブページを
リニューアル!

ぜひ、ご覧ください!



スマホ、タブレットの
画面に最適化させた
デザインに!

紙面PDFと
ウェブページ版の
記事が見れます!*

記事ごとの
バックナンバーも
読めます!*

